

# 文化庁説明資料

## ①取組の進捗状況

### 【文化財の英語解説作成の手引きを策定】

4つの視点と優良事例をまとめ、各種会議にて周知（28.8～）

### 【多言語対応モデル事業の実施】

「日本の歴史・伝統文化情報発信推進事業」（H28～）

### 【有識者会議の設置・検討】（29.1～） 等

▽熊野古道の看板見直し（田辺市熊野ツーリズムビューロー）



## ②対応状況

### 【国立館の状況】 常設展・特別展とも英・中・韓対応

※展示室解説・キャプション、音声ガイド



### 【全国の文化財の状況】

・年間50万人以上来場する文化財が所在する地方公共団体について、少なくとも1か国語以上の外国語解説があるか調査。

111地域のうち**6割の地域で未対応文化財**あり（文化庁調査28.11）

## ③課題

### 【未対応の要因】

地方へのアンケートでは、**予算や人材、ノウハウの不足**等が課題

### 【内容的・質的な課題】（有識者より聴取）

・専門性の高い日本語解説を翻訳しており**外国人目線・観光目線**が不足。ネイティブチェックも不十分。

## ネイティブの専門人材と連携し多言語対応を促進

### 現状

地域・文化財所有者  
が個別に判断

一般的な  
制作過程

日本語で解説作成

翻訳

### 改善の方向性

**（対応の加速）**  
世界遺産など優先度の高いものについて  
**専門人材と連携して多言語対応を促進**

**（質の担保）**  
「翻訳」ではなく**外国人向けに「制作」**  
したうえで**「監修」**を入れる

（制作過程）

外国人ライターが解説を「制作」

監修者がチェック

## ① 取組の進捗状況

### 【国立館の多言語対応】

全館において、常設展・特別展含め、英・中・韓での展示室解説・キャプション、音声ガイドの対応を実施

### 【国立館の夜間開館】

平成28年9月～ **20時まで開館延長**（金・土）

平成29年度以降 **7～9月は21時まで開館延長**（金・土）

### 【ユニークベニューの推進】

東京国立博物館における平成27年度実績 : 434件

## ② 課題

○ 情報発信の不足

○ 美術館・博物館の楽しみ方をより深く知ってもらうため、観光庁や民間企業等と連携した、来館者の裾野を広げる文化的プログラムの更なる充実

## 観光庁や民間企業と連携した、美術館・博物館における文化財の活用を促進

### <新たな取組の方向性>

- ◎ **ミュージアム・ツアーなどのプログラムの企画・実施を推進、情報発信の強化**
  - ・**閉館後の解説付きプレミアムツアー**、ホテルコンシェルジュを対象としたトリップ・ツアーの実施
  - ・東京国立博物館における、**高精細複製による「新しい日本美術体験」実施予定**（7～9月）
  - ・**「ナイトミュージアム」の促進**  
→上野で蓄積されたノウハウを生かし、他の地域で**美術館・博物館の夜間開館と併せたコンサート、映画上映会等のイベントを実施**し、外国人を含めた新たな層を掘り起こし
  - ・日本政府観光局（JNTO）や民間旅行会社のウェブサイト等を活用した海外発信の推進

### ◎ **国宝・重要文化財の公開・活用に係るセンター機能の整備による国内外の人々が文化財にふれる機会を拡大**

- ・まとめて観ることの無い国宝・重要文化財を、鑑賞機会の少ない地域や海外での展覧促進
- ・全国に国指定文化財を活用した地域の企画に対する助言や共同実施
- ・**先端技術を活用した国指定文化財の高精細レプリカ・VRの作成・活用を促進**
- ・収蔵品等のアーカイブ化
- ・専門職チームを設置し、上記を対応



修理前



修理後



損傷劣化が激しく、保存修理後、東京国立博物館において公開

**唐招提寺展**  
【東京国立博物館】  
通常の2倍以上の約40万人が来場



国宝 乾漆盧舎那仏坐像（金堂安置）【宗教法人唐招提寺】

## ① 日本遺産制度の概要・目指す姿

- 一連の「ストーリー」で語ることができる地域の有形・無形の文化財群を、「日本遺産」として文化庁が認定。
- 地域が主体となって総合的に整備し、国内外に発信することにより、自らの力で地域の活性化・観光振興を図る。
- 現在、54件を認定済み。平成32年（2020年）までに約100件の認定を目指す。
- 「日本遺産魅力発信推進事業」を通じた地域の取組支援
  - (1) 情報発信・人材育成
    - ・多言語ホームページの作成
    - ・ボランティア解説員の育成 等
  - (2) 普及啓発事業
    - ・展覧会、ワークショップ、シンポジウム、体験活動の開催
    - ・日本遺産PRイベント（国内外）の開催 等
  - (3) 公開活用のための整備
    - ・ストーリーの理解に有効なガイダンス機能の強化
    - ・周辺環境等整備（トイレ・ベンチ、説明板の設置等） 等

## ② 日本遺産認定地域の取組例

（山形県）  
訪日外国人に向けた修験等体験を実施。



（島根県）  
観光客対応や商品開発を企画・運営する「日本遺産センター」を開設。



## ③ 課題（有識者の指摘）

- 日本遺産認定地域において制作するコンテンツが目的と合っておらず効果がなく、制作されたものが**有効活用されていない**。
- 収益モデルが成り立っておらず**自走に向けて事業が育っていない**。

## 「日本遺産」事業の改善に向けた取組の方向性

### ◆ 日本遺産に対する**民間企業・関係省庁の支援体制の構築**

関係省庁・関係機関と連携して、日本遺産に対する民間企業の支援体制を構築。

### ◆ 認定地域への**フォロー体制の強化による自走の促進**

有識者の助言を得て、認定地域などが自走するために必要な取組等をマニュアル化することにより、認定地域の自走化を促進。

### ◆ **PDCAサイクルによるメリハリをつけた事業の促進**

認定地域自らが定めた指標による目標の達成度等を評価するとともに、取組の改善点を示すことで、効果的な事業の実施を促進。

## 課題

文化財を専門的な知識のない人にも身近に面白く感じてもらうため、映像、VRなど様々な手法を工夫して発信強化を図ることが必要であり、新たに以下の取組を実施

### VR技術の活用

文化財のバーチャル・リアリティを活用した観光振興に関する調査研究事業（H29新規）

VR技術を利用した文化財の公開活用に向け、

- **先進事例**把握（文化財の種別に応じた最適機器・コンテンツの選択等）
- 活用のための**ガイドラインの作成**
- **VR作品の制作促進** 等

※VR：人工現実感（Virtual Reality）。仮想空間上にリアリティ（実在感）を構築する技術

### 「文化遺産コミュニケーター」（仮称）

新たに実施した「文化財を中核とする観光拠点形成に向けたオンライン講座」におけるアンケート結果等を踏まえ、**文化遺産と社会をつなぐ資質の高い人材を「文化遺産コミュニケーター」と位置付ける**仕組みを創設、人材育成に取り組む

### 文化財修理の情報発信強化

文化庁HP及びJNTOサイトに**文化財修理の特設ページを整備**

文化財の**大規模修理完了時の公開**など、文化財修理の成果を広く情報発信

「文化財を中核とする観光拠点形成に向けたオンライン講座」（H29年3月開講）

「明日の日本を支える観光ビジョン」（関係者会議、平成28年3月30日策定）

- ただし、文化財の保存が軽視されているわけではない
- 文化財の保存が基本、ただし、保存だけが自己目的化するのはいけない、という発想
- 文化財修理の加速＝観光資源としての働き上げ＝周遊環境整備
- 文化財の意味を伝えること＋文化財にふさわしい周遊環境をつくりあげること
- さらに、総体としての観光地全体の魅力向上を目指す

DESTINATION MARKETING

STPマーケティングのステップ

- マーケティング機会の分析
- セグメンテーション
- ターゲティング
- ポジショニングの設定
- マーケティングプログラムの立案
- 実行コントロール

約1か月間で  
約2,000人が受講

## 日本の伝統文化体験プログラムの充実

### ●有識者指摘

日本の歴史・伝統文化体験こそが、欧米系を中心に高いニーズがある。外国人観光客を引きつける体験プログラムの実施が必要。

### ●対応方策

**国立劇場で日本の伝統芸能の魅力体験する機会を充実。**

- ・外国人のための鑑賞教室 Discoverシリーズ
- ・外国人向けの体験プログラム
- ・多言語ガイド、多言語字幕 等



## 暮らしと自然の景勝「文化的景観」の活用促進

### ●有識者指摘

別荘群等の文化的景観の観光資源としての活用が不十分。

### ●対応方策

旧邸宅を地域住民と来訪者の交流の場として開放する取組への支援など、自治体や民間団体等が行う**文化的景観の魅力づくりや情報発信を一層推進できるよう国として支援。**



鎌倉に所在する邸宅を地域住民と来訪者の交流の場として活用（湘南邸園文化祭）

## 文化財建造物修理（工事の質を担保）

### ●有識者指摘

寺社など文化財所有者が実施する事業で粗悪な工事が散見される。公共工事と同様のルールを適用し防止すべき。

### ●対応方策

- ・補助事業者等に対し、**入札は原則一般競争入札とし最低価格を設定**するなどの契約手続きに関する**通知**。
- ・実態把握の上、寺社などの補助事業者が公共工事と同様に適正性や透明性を確保して執行できるよう、契約、施工管理のための**チェックする仕組みを創設**。

## 芸術祭など地域の文化芸術資源を活用した取組の充実

### ●有識者指摘

地域の文化芸術資源を活用し、地方のエンタテインメントを充実させ、地域の活性化につなげることが必要。

### ●対応方策

- ・**地域の文化芸術資源を磨き上げ活用する取組**を支援
- ・芸・産学官連携により持続的な地域経済の発展や共生社会の実現に向けた拠点を形成し、専門的人材の育成や国内外への発信等の取組を支援。



瀬戸内国際芸術祭（撮影：中村 脩）